

平成13年7月7日

中部大学 ESS OB会

塩澤正 (中部大学)

最近のインターネット利用の英語学習・教育

I. 現状

1. 日本の英語教育の現状

時間数、内容減少、文法・機能・内容折衷シラバス

総合的学習の時間、児童英語教育の展開

8単位→4単位必修化、ESP化、留学、英語以外の外国語の開講

2. インターネットの現状 広がる Digital divide

3億6000万人(世界) アイスランド、スウェーデン、カナダ、ノルウェー、アメリカ

アメリカ (1億4400万)

日本 (2700万人) 普及率は大13位

100校プロジェクト、科目「情報」、教室の完全ネットワーク化

II. なぜインターネットなのか

動機づけ、Intrinsic motivation の提供

exposure の提供 (いつのまにか421通)

Language use の提供、目的を持った Communication 活動 (練習に終わらない)

Communicative approach の実践 (communicative, meaningful, interactive)

Inductive Learning の実践 (先に表現ありき、sを落とす学生)

生々しい情報と英語への接触 (異文化理解、さらなる動機づけ)

学びの共有、自立した学習者の育成

III. プロジェクト紹介

メール交換プロジェクト、「情報英語」、GRSL、Impact on line, Free proofreading

III. 課題

外国語学習と情報学習の急接近

施設の問題は解決する

使う側の意識の問題、カリキュラム、評価、権威者としての教師と助言者としての教師

computer literacy の問題

コンピュータの要らないネット利用

英語は共通語ではない

IV. 将来

不明